

第4回 川越市庁舎整備審議会 議事要旨

- 1 開催日時** 令和8年7月30日(木) 13時30分から16時55分まで
- 2 開催場所** 川越市役所 7AB会議室
- 3 出席者** 眞下英二(会長)、横田等(副会長)、神田賢志、小林透、糸真美子、
(委員) 川口知子、高橋剛、小ノ澤哲也、中原秀文、菊池雅彦(オンライン参
*敬称略 加)、高橋儀平、及川康、大塚佳臣、大鐘俊雄、加藤和徳、後藤徳子、
山崎共子、千田明寛、鈴木敏之
- 4 欠席者** 村田孝佑

5 会議の概要

1 開会

委員として、小林透氏が就任することとなり、あいさつをした。
また、事務局側の担当職員についても紹介を行った。

2 議事(◎会長 ○委員 ・事務局)

議事に際して、庁舎整備候補地の議論で市有地以外に関する事項は非公開とすることを確認した。

(1) 審議に必要な資料の提供等について

質疑は特になし。

(2) 新庁舎整備の検討の方向性(確認)

質疑は特になし。

(3) アンケート調査の結果等の報告(速報)

○来庁者実態調査の駐車場調査について、近隣利用のついでに利用されるケースもあるということか。

・19日の調査時にナンバーを確認したところ、1割〜2割は県外ナンバーがあり、庁舎利用者以外の利用も想定される。

○庁舎の立地によっては、駐車台数を減少させる可能性もあるか。

・今後の検討となるが、鉄道駅周辺の場合は交通渋滞を低減するために自動車利用を抑制していく方向性も考えられる。また、観光客との利用のバッティングも避ける必要もあり、駐車場のあり方を考えていく必要がある。

○これまではモータリゼーションの進展により自動車利用が多かったが、今後の環境配慮への重要性を考慮したときに、事務局としてどのような考えがあるか。

・庁舎整備にあたっての駐車場整備の考え方を整理していく必要がある。他市では駐車台数を減らしている例もあり、立地も踏まえた検討が必要となる。

○職員アンケートについて、非正規雇用者を対象外としている理由は何か。

・調査システムや時間の都合上、今回、非正規雇用者は調査対象外としたが、今回は利用実態を把握するためのものであり、今後庁舎のあり方検討にあたり調査を実施する際は、非正規雇用者も対象としていく。

(4) 新庁舎整備の理念・コンセプトの検討

○本市の検討の方向性に関して、他市では子供のグループインタビューを実施している事例もあり、そういった手法は検討しているか。

・現時点で具体的に決定しているものはなく、委員より実施方法について意見を伺ったうえで実施したい。

○市民の意見、特に子どもの意見も重視して検討していくとよい。

○プロジェクトチームの平均年齢はどの程度か。

・おおむね 40 歳未満のメンバーで構成されている。

○今後プロジェクトチームで検討した内容を審議会で議論したうえで、再度プロジェクトチームにフィードバックするという流れでよいか。

・その流れで考えている。審議会で出た意見を集約し、プロジェクトチームにフィードバックする予定である。

○市民の意見の反映についてイメージがわからない。市民意見は、居住地等により意見が異なることが想定される中で、実施形式（パブリックコメントや直接対話等）や実施時期についてどのように考えているか。

・現時点で想定しているものはないが、パブリックコメントを実施する他、市民との対話の機会を設けていきたい。

○コンセプトや候補地などのアウトラインが決定した段階で、関係する市民の意見を聞くことが想定されるが、現状では全市民が対象となっており、的を絞った意見聴取も必要となるのではないか。

・いただいたご意見は検討が進んだ段階で聴取するのがよいと考えている。

○現時点で市街地および駅周辺の 2 つの考え方が示されており、あらかじめ検討をした段階で市民意見を聴取すべきではないか。

- ・市民対話の時期、方法を具体化したうえで、改めて委員から意見をいただけるとありがたい。

○庁内プロジェクトのチーム数を増やす可能性はあるか。

- ・現状は想定していない。

○現状のプロジェクトチームの属性を見ると、働き方といった職員目線の議論に限定される可能性がある。例えば、公募により市民側のプロジェクトチームを組成するといった、広範な議題について検討できる場を設定するべきではないか。審議会でも同様にプロジェクトチームを作りながら議論していくことも考えられる。

- ・現状のプロジェクトチームでは、職員側の意見に偏る可能性もあり、市民や審議会委員も参加した議論の場を検討する。

○審議会で議論できる範囲も限られるため、職員のプロジェクトチームに市民や審議会委員が加わるといった方法も考えられる。

○中野区役所を見学して、本市と20年くらいの差があると感じた。プロジェクトチームメンバーは最新事例を見ているわけではないため、できれば一緒に見学をしたりできるとよい。また、プロジェクトチームの男女割合はどの程度か。さらに、身体障害者等の意見も反映できるとよい。

- ・男女比は3:2程度である。その他いただいたご意見について検討する。

○庁内プロジェクトチームに審議会で提示しているような資料は提供しているか。

- ・近年の庁舎整備事例や本市での方向性といった基本的な情報提供をしている。

○他市では、政策課題について、無作為抽出により市民を募り、議論内容を政策提言として取りまとめ、最終的に政策提言・答申を行う事例がある。

- ・いただいた意見を踏まえ、進め方について次回審議会で案を提示する。

(5) 庁舎の規模の検討の方向性

○DX化に関して、本庁舎で行っている手続き業務を市民センターに移管しワンストップ化することで、本庁舎の規模を低減できる可能性がある。DX化による規模の変動要因として検討されたい。

- ・他市事例も踏まえて規模算定に反映していく。

○まずは公共施設管理計画、職員の働き方、行政サービスのあり方を検討するよう意見していたが、今回そのような説明になっており良かった。引き続き、市の公共施設のあり方も

含めて検討されたい。

- 今後の 30 年～40 年を見据えて検討していく必要がある。職員の働き方、市民と市役所との関わり方が大きく変わる可能性がある中で、現状の規模算定の考え方でよいのか。不確実性がある中で、幅を持って臨機応変に対応できるようにされたい。
- ・市民サービスのあり方に関係するご指摘と理解した。また、ライフサイクルコストの低減の観点で、可変性を持った庁舎整備を行っていく必要があると理解している。
- 可変性をもって、今後の変化についていけるような庁舎整備を検討されたい。

- 市民の庁舎への来訪頻度は年 1 回程度となるなど、すでに市役所に行かない傾向が現れている。規模については、公共施設の複合化や周辺施設との連携も重要な観点であり、総務省や国土交通省の算定基準に縛られる必要はないと考える。また、将来的に使用しないスペースが生じても、それをうまく活用できるような仕組みとなっていればよい。

- 新庁舎は何年使っていくことを想定するのか。また、今後の人口減少や人口構成の変化を踏まえて規模をどのように検討していくべきと考えているか。

- ・免震構造等を採用すれば最低でも 65 年超は供用されることが想定される。また人口構成の変化に応じて市民ニーズの変化が考えられ、オンライン化と反して対面で丁寧に対応するニーズも出てくると考えられる。市民センターとの連携等も踏まえ、市民サービスのあり方を具体化していく必要がある。

- 市役所を中心とした賑わいも重要であり、行かない市役所との関係性についてどのように考えているか。

- ・証明書や事務手続きでの来庁は不要となる一方で、イベントやレクリエーションといった賑わいのための来庁は検討していく必要があり、両者は矛盾しないものと考えている。

- ヨリネスしばたを見学したが、イベントスペースに加え市民が夜 8 時まで滞在できるスペースも整備されている。こういった市民のための機能についてもプロジェクトチームの中でもしっかりと検討されたい。

(6) 庁舎整備候補地の検討

- 小中学校については今後の少子化を鑑みると統廃合の可能性があるのでないか。

- ・現時点で統廃合が決定しているものはない。
- ・令和 7 年 12 月に川越市立小中学校適正規模・適正配置審議会から答申をうけ、基本方針を策定中である。本庁地区に関する小中学校の適正化については基本方針策定後に検討していく予定である。

- 候補地の要件設定について、現在建物がある場所は候補地から除くという理解か。
 - ・現在建物がある場合は解体の必要があるという整理をしている。
- 更新時期を迎えていたり、築年数が一定を超えているものは候補にしてよいのではないか。
- 規模が決まらない中で候補地を議論するのも難しいが、既存の建物を活用する方法もあり得るのではないか。
- 評価項目の検討の前に行政サービスのあり方や職員の働き方を明確にする必要があり、それによって評価方法が変わってくるだろう。例えば、市民サービスの拠点は駅周辺に立地しているが、本庁舎は駅から離れた場所に立地している事例もある。
- 予算制約もある中で、いくつかのモデルパターンを作成して検討していく必要があるのではないか。
 - ・各委員からいただいたご意見も踏まえ、駅前パターンや現所在地パターンでの整備イメージを次回の検討材料として用意していきたい。

(7) その他

質疑は特になし。

3 閉会

(省略)

以上